小教区評議会役員交流会報告

■テーマ： サイクルテーマ①「教会と福音宣教の理解」
「シノダリティをよく表す識別の方法「霊における会話」の体験」
■対　象：ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区役員(各小教区より 1 名)
■日　時：2024 年 9 月 28 日（土）　13：00～16：00
■場　所：河原町カトリック会館大ホール　他
■参加人数：41 名（信徒 36 名、司祭・司牧者 5 名）
■内　容： 趣旨説明　「霊における会話」の体験　全体会

5 年ぶりに対面での開催となった今回の役員交流会では、春の研修会で紹介された「霊における会話」を実際に体験した。

「霊における会話」の方法、テーマの説明と導入の後、参加者はまず、分かち合いのテーマについて、個人で祈りの時間を持った。その後、6～7 名の小グループに分かれ、ファシリテーターの進行のもと「平等の発言時間」「聞くことに集中する」「祈りと沈黙」を大切し、聖霊の導きを願いながら第 1 ステップから第 3 ステップのセッションを通して「わたし」を発表し、「あなた」を受容し、「わたしたち」へと共に形づくっていく過程を体験した。全体会では第 3 ステップで一人一人の発言を付箋で貼りだしたシートとともにグループでの一致点や気づきなどが発表された。

大塚司教コメント：「霊における会話」には、これまでの分かち合いのルールに加え、発言時間の制限、祈る時間を取る、などのルールがあり、識別や見極め、選び、集約のために有効な方法である。祈る(考える)、発表する、聞くというプロセスで、自分とは異なる意見に気付きを得る。自分の考えを貫こうとすると聖霊は働かない。自分の意見に固執せず、考えが発展し変化する体験が聖霊に導かれるということなのでしょう。たとえ、最初の考えが変わっても、敗北感を感じたり、傷ついたりしたと思わず、心が昇華され、自分が引き上げられる体験が「霊における会話」の醍醐味です。「霊における会話」の習熟には体験を重ねるしかないので、小教区に紹介していただき、始めは簡単なテーマ（設問）でやってみてほしい。第 3 ステップまで進む場合、例えば、教会が今後どのような行動を取るべきかといった司牧計画を作成するために、グループでの識別や判断が必要な課題に対して、「霊的な対話」を実施することが適切です。

参加者ふりかえり：【ふりかえり】参照

福音宣教企画室ふりかえり：全体会からは各グループで豊かな「霊における会話」が行われたことが伝わってきた。また、終了後スタッフにも複数の参加者からよい体験だったという声をいただいた。事前にファシリテーターと打合せを行なった際にも、実際に「霊における会話」を実施し、色々と意見を交わしながら、より参加者にわかりやすく、ファシリテートしやすい方法を模索したプロセスが豊かな時間だった。今後「霊における会話」が教会の「文化」として小教区に浸透し、よい体験として共同識別に活かされていくために参加者、ファシリテーター双方の体験の積み重ねのサポートを続けていきたい。

以上